

松江市 報道提供資料

令和5年7月7日

件名

松江市内における腸チフス患者の発生について

内容

7月7日、松江市内の病院から松江保健所に腸チフス患者発生の届出がありました。現在、松江保健所が感染経路等の調査を実施しています。

※詳細は別添資料のとおりです。

【問い合わせ】

健康福祉部 保健衛生課 担当：加藤、藤本 電話：0852-61-2001

対応時間：7月7日 18：00（終了予定）

腸チフス患者の発生について

1 概要

7月7日、松江市内の病院から松江保健所に腸チフス患者発生の届出がありました。現在、松江保健所が患者及び接触者の行動調査等を実施しています。

2 患者

松江市内在住の男性、海外渡航歴なし

症状:倦怠感、発熱、頭痛、嘔吐、耳痛

経過:6月14日 倦怠感

6月15日 発熱(37.8℃)、市内A診療所を受診

6月16日 発熱、頭痛、嘔吐、市内B病院を受診

6月18日 発熱(39.2℃)、耳痛、市内B病院を受診

6月19日 市内C診療所を受診

6月20日 発熱(39.2℃)、市内B病院受診後、入院

6月21日 市内B病院から島根県保健環境科学研究所へ病原体確認検査依頼

7月3日 市内B病院、退院

7月7日 島根県保健環境科学研究所の検査で腸チフス陽性判明

7月7日 市内B病院から松江保健所へ腸チフス患者発生の届出
現在、患者は回復しています。

3 対応状況

- ・患者の行動調査等
- ・接触者の健康調査、検便
- ・手洗い等、二次感染予防の指導
- ・家庭のトイレ等の消毒指導

【参考】腸チフスの臨床症状等

- ・腸チフスは、チフス菌(*Salmonella* serovar Typhi)の感染によっておこる全身性の疾患です。
- ・患者の便に汚染された食品や水等を介して、口から入ることによって感染します。
- ・潜伏期間は通常7~14日(報告によっては3~60日)で、主な症状は高熱(39~40℃)、頭痛、倦怠感、徐脈(脈が遅くなる)、バラ疹(胸や背中、腹に淡いピンク色の発疹)、下痢などです。
- ・国内では年間20~30例程度報告があり、その多くは海外での感染事例です。

【市民の皆様へ】

2018年以降、松江市内で腸管出血性大腸菌感染症以外の3類感染症は発生していません。海外旅行で感染症にかからないように、次の事項に注意して下さい。

- ①なま水はさける。(煮沸した水や缶や瓶入りのミネラルウォーターは飲んでもよい)
- ②なまもの(生の魚介類、生野菜やフルーツ、アイスクリーム、氷等)はさける。

現在、出雲市内において腸管出血性大腸菌感染症の集団発生が確認されています。腸管出血性大腸菌感染症等の感染症発生予防のため、各家庭及び食品調理施設においては、次の事項に注意して下さい。

- ①手洗いの励行:感染を防ぐためには手洗いが最も大切です。用便後、調理前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。
- ②バーベキューや焼き肉をするときは、生肉用の箸と取り箸を使い分け、中心部までしっかりと加熱して食べましょう。
- ③腸管出血性大腸菌に感染した場合、重症化させないことが大切です。腹痛、下痢、血便等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

プライバシーを尊重した対応をお願いします